

令和4（2022）年度 武蔵丘短期大学 自己点検・評価

基準項目	評価項目	評価（１～４） 1:認識している 2:開発・発展途中である 3:習熟している 4:持続的・発展的な質の改善につとめている	本年度 特に優れた取り組みについて	今後の課題
建学の精神と教育の効果	短期大学の建学の精神に基づき、教育目標・目的にカリキュラムに生かし、評価している	4	・令和6年度からの変更に向けて、新専攻の教育目標・目的について健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻で見直し、カリキュラムの検討を行った。	①教育目標・目的・三つのポリシーの見直し ②各専攻（新専攻も含む）のカリキュラムの完成 ③学習成果の可視化
	専攻ごとのアドミッション・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシーを明確化し、評価している	4	・入学前教育の課題によって3つのポリシーについて周知・理解を深めた。	
	カリキュラムは必要な能力を育成するための編成になっている	4	・基礎教育科目について、一部科目の閉講及び新規科目の開講について検討した。	
	学習成果が明確にされ、質的・量的データ評価を行っている	3	・質的・量的データ評価として授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえ、授業担当教員は授業改善計画を提出している。 ・教育の質向上のため、全教員で授業見学を実施した。 ・新入生がスムーズに学校生活をスタートできるように、全体オリエンテーションの他に教務オリエンテーションを実施し、履修などのサポートをできるようにした。	
	教育課程編成、実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	2	・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに基づき、科目の重要度の検討をおこなった。これに基づいて次年度以降、教員組織にいての検討を始める。	
	地域・社会貢献を行っている	4	・地域連携を行っている東松山市・滑川町・北本市の授業に対し講師を派遣し、市・町の行事を行っている。（レクレーションゲーム、きらめき市民大学授業、防災訓練としての炊き出しなど） ・武蔵丘スポーツクラブとして地域貢献行事を行っている。（幼児に対する運動体験及び測定など）	①要望される依頼内容の把握と人選・日程を計画 ②継続して要望されている行事の担当教員の日程の調整
内部質保証	自己点検・評価を定期的に行っている（PDCA サイクルの確立）	2	・PDCAサイクルの確立を図り、全学的に取り組んだ。	①定期的に行える自己点検・評価（PDCAサイクル）の確立を目指す
	日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。	3	・経営判断指標「B0」を目指して、学園全体で中期的な計画を立て改善を進めている。 ・現在達成のための様々な課題もあるが改善は始まっている。	
	情報公開をしている	3	情報公開に向け、取り組んでいる。	
3つのポリシー	専攻ごとのアドミッション・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシーを明確化し、評価している	4	・大学パンフレットおよび学生募集要項に記載し、明確に示している	①オープンキャンパス参加者へ入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の伝達方法の見直し・改善 ②入学前指導の内容の見直し・改善
	入学者に対して適正な入学前指導を行っている	4	・各専攻より事前学習内容を提出いただき、コロナ感染拡大予防策として課題型での実施をしている。	
学生支援	学生の生活の支援を行い、学生生活が円滑に営むことができるように組織的にを行っている	4	・「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」や「物価高等に対する経済対策支援事業」での支援金を活用した食費補助を迅速に行い、学生生活を支援した。 ・コロナ禍において、学生イベントが中止となる中、コロナ禍でも実施できるイベントを実施したことで、友達との親睦を深めるきっかけを提供した。	①学生数の減少、学生の主体性の乏しさから従来のような学生主体のイベントづくりの困難さ ②教職員でイベントづくりの骨子を固め、学生が学校行事を運営しやすい体制とする必要性があるため、イベント時における教職員の協力体制の強化 ③学校側と学生との情報共有、連絡方法
	進路支援を組織的にを行っている	3	・学生の卒業後の進路支援に関する授業を委員会で開催し、各部署と連携し、授業内容の改善に取り組んだ。 ・積極的に企業訪問を行い、企業の評価を学内で共有し、組織で進路支援を行うことにつなげている。 ※定期的な進路に関するアンケートの実施により、在学中の進路に関する意識変化を追うことができた。 ・進路先の共有ができた。 ※採用試験におけるZOOM面接のサポートとして専用の部屋を整備した。	①活動状況の把握・決定状況の把握方法の見直し・改善
	進路支援について評価している	2	・卒業生の就職先からの評価アンケートを聴取している。 ※卒業生からの評価アンケートを実施した。 ・卒業後もコンタクトが取りやすい環境を構築している。	
教育資源（人的・物的資源）	専任教員は、教育課程編成・実施に基づいて教育研究活動を行っている。	4	・学生の学習成果獲得の向上を目指し、シラバス（学習支援計画書）を見直し、その作成方法について専任教員対象に説明を行い、共通理解の場を設けた。	①武蔵丘短期大学紀要の刊行 ②シラバスの見直し
	事務職員学生支援を行うにあたり、職務を果たし、学校施設の管理を適切に行っている	4	・学生が授業を受けやすい環境づくりに配慮して、教育関連機器や体育館・グラウンドの修繕や整備を随時行っている。	①教育資源の不足について、事務局での全体的把握
	学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備し、教育課程の実施に基づいて物的資源を整備し、活用している。	4	・事務局組織は、教務課・チューデントサポート課、総務課を配置し、修学支援及び学生支援に対応している。どんな相談に対しても、学生に寄り添った対応を心掛け、問題解決に努めている。 ・教職員の労務管理は総務課が担当し、時間外労働や有休取得について基準を満たさない教職員に対し注意喚起を行い法令を遵守している。 ・教育課程編成・実施の方針に基づき、校地、校舎等を整備・管理している。	①担当する業務以外の業務内容への視野の拡大とスキルアップ ②施設整備を管理上、教育機器の使用状況の把握
	教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	4	・教員のスキルアップを図るために、オンライン環境、オンデマンド教材作成に関する研修会を実施した。	①各教員のニーズに合わせた内容の検討
	研究倫理に関する規定を整備し、定期的に研究倫理を遵守する取り組みを行っている。	2	・学園監事との連携を図るため、令和3年度の外部資金による研究について取りまとめ、理事会で報告した。 ・文部科学省のガイドラインに沿って規程を再整備して変更しないようを教授会で周知した。	①本学の教員の意識の薄さ ②令和3年度研究倫理教育の未受講者への対応